

ヌカカの特長

- ・体長：1.5~2.0 ミリ。編戸をすり抜けるほど小さい。
- ・森林内の沼や溪流沿い、沿岸部の湿地や砂地、鶏舎周辺などの水辺に生息している。
- ・湿度が高く、かつ無風の日によく活動する。
- ・4 月下旬ごろから見られ、6 月から 9 月頃が最も活動が盛んになる。11 月中旬以降になると活動は終息する。

沖縄ではやや長く、1 月~11 月頃まで活動が見られる。

- ・1 日中活動するが、朝と夕方に活動のピークがあり、人の活動時間帯と重なる夕方の刺咬被害が多い。
- ・大量に発生し、蚊柱を作ることがある。
- ・メスのみが吸血する。
- ・肌の露出部だけでなく衣服に覆われた部分にも入り込み刺すことがある。一度に多数箇所刺されることがある。

かゆみが非常に強く、かゆみが数日続くこともある。

ヌカカの見分け

ヌカカはその習性或刺咬被害の状況からブユと混同されることがあるが、次の点で区別される。

- ・ヌカカは体長 1.5~2.0 ミリである。ブユは体長 3~6 ミリと、ヌカカよりもやや大きい。
- ・ヌカカの見た目の形状は、頭部が小さく、蚊に似ている。ブユは頭部が大きいためハエに似ている。
- ・ヌカカは集団で活動することが多く、蚊柱を作ることもある。一方、ブユは集団で活動することはなく、蚊柱を作らない。
- ・ヌカカは蚊と同様に口吻を皮膚に刺して吸血するが、出血はしない。ブユは口吻で皮膚を切り裂き吸血するため、出血することがある。

人への吸血性を持つヌカカ種とその発地域

ヌカカは日本国内で約 40 種以上が知られているが、そのうち人や家畜への吸血性が確認されている種は以下の 10 種である。また、これらの発生が報告されている地域は以下のとおりである。

種 名	発 生 が 報 告 さ れ て い る 地 域
トクナガクロスカカ <i>Leptoconops nipponensis</i>	鳥取、島根、兵庫、京都、鹿児島（奄美）（亜種）、沖縄（亜種）
オオシマスカカ（アマスカカ） <i>Culicoides. amamiensis</i>	新潟、神奈川、東京、宮崎、鹿児島（奄美）、沖縄
ニワトリスカカ <i>Culicoides arakawae</i>	山口、岡山、鳥取、兵庫、大阪、京都、滋賀、三重、愛知、静岡、岐阜、長野、山梨、石川、新潟、神奈川、東京、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城、福島、山形、岩手、青森、高知、愛媛、鹿児島、宮崎、長崎、佐賀、福岡、熊本、沖縄（本島、石垣、八重山）
キモンスカカ <i>Culicoides. aterinervis</i>	北海道（上川）、京都、岐阜、長野、新潟、岩手、青森、鹿児島（奄美）、沖縄
イソスカカ <i>Culicoides. circumscriptus</i>	岡山、鳥取、和歌山、新潟、神奈川、東京、千葉、埼玉、静岡、山形、高知、愛媛、鹿児島
オオモンスカカ <i>Culicoides. dubius</i>	北海道（上川、釧路、網走）、京都、新潟
セマダラスカカ <i>Culicoides. homotomus</i>	大阪、佐賀
マツザワスカカ <i>Culicoides. matsuzawai</i>	新潟、神奈川、東京、青森、宮崎
スカカ <i>Culicoides. obsoletus</i>	北海道（石狩、日高、留萌、釧路）、鳥取、大阪、岐阜、新潟、東京、岩手、青森